

会 議 要 録

会 議 名		令和 7 年度 第 2 回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和 7 年 6 月 2 5 日（水）午後 2 時 0 0 分～午後 3 時 3 0 分
場 所		本庁舎 5 0 5 会議室
出席者等	委 員	1 4 名（欠席者 3 名）
	事務局	こども家庭部長、子育て支援課長、こども家庭センター長、教育指導担当部長、子育て支援課こども・若者支援担当係長
傍 聴 人		4 名
会議内容	1 開 会 2 議 事 (1)（仮称）小平市こども計画体系案について (2) 今後のスケジュールについて (3) これまでに実施した意見聴取について (4) こどものけんり通信の発行について 3 情報交換・意見交換 4 その他 5 閉 会	
配付資料	会議次第 資料 1 （仮称）小平市こども計画構成案 資料 2 （仮称）小平市こども計画今後のスケジュールについて 資料 3 実施した意見聴取について（報告）⑭⑮ 資料 4 こどものけんり通信 vol. 1 参考資料 1 （仮称）小平市こども計画策定の基本方針について 参考資料 2 こども基本法概要 参考資料 3 こども大綱概要（こども家庭庁資料より） 参考資料 4 （仮称）小平市こども計画庁内検討委員会設置要綱 参考資料 5 第二次小平市教育振興基本計画第 3 章 当日配付資料 席次表 「夢みる校長先生」映画上映会チラシ 「夢みる校長先生」映画上映会&ワークショップチラシ	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

2 議 事

(1)（仮称）小平市こども計画体系案について

事務局	資料 1（仮称）小平市こども計画構成案の 1 「（仮称）小平市こども計画」構成（案）について、構成は全部で 5 章立てとし、資料のとおりとした。特に第 2 章 小平市のこども・若者を取り巻く現状と課題の 1 現状の（2）には、昨年度から実施している意見聴取「こども・若者、子育て当事者からの意見」を記載している。2 に「小平市子ども・若者計画の評価と課題」を含めており、これまでの子ども・若者計画に沿った小平市の取組に関し、評価と課題を記載するものである。
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第3章、第4章について、① 計画名称の案をこだいらこども若者みらいプランとした。理由としては、対象者がこども・若者であることを明確にし、将来を見据えた市の取組をとりまとめた計画であること、親しみやすさを考慮して設定したものである。また、「こども」の表現であるが、こども基本法では「こども」は成長過程にあるもので、おおむね30歳未満としているが、10代後半から20代の方が、「こども」と言われたときになかなか自分も含まれるとは認識しにくいことを考慮し、「こども・若者」と書いたほうがわかりやすいという理由で、そのように表記することとした。

② 基本理念としては、「こども・若者 一人ひとりが 自分らしく幸せな未来をえがけるまち こだいら」とした。理由としては、1つ目が参考資料3のこども基本法の目的である「将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現」を反映したこと、2つ目が参考資料5、教育振興基本計画の基本理念「学び・体験を通じて お互いに認め合い 励まし合い 共に生きるまち小平」を考慮したこと、3つ目が昨年度実施したアンケート調査結果によると、将来に不安を感じる割合は小学5年生で32.6%であるものの、年代が上がるにつれてその割合も上昇し、学生・一般では71.8%と高くなっていること を考慮した。

③ 基本的な視点としては基本目標など全体にかかる視点を3つ設定した。資料にはわかりやすいよう記載しているが、実際には体系図には表記しない予定である。

視点1「こども・若者の最善の利益を図る」では、こども・若者と子育て当事者の視点を尊重し、最善の利益の実現を図るとともに、こども・若者の自己実現を後押しする。理由としては1つ目が、参考資料2、こども基本法の「こども施策に関する基本的な方針」に「①こども・若者を権利の主体として認識し、その多様な人格・個性を尊重し、権利を保障し、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図る」とあること、2つ目が、障害、疾病、虐待、貧困、外国にルーツがある、他配慮が必要など困難な状況にあるこども若者やその家庭を守ることが重要であることである。3つ目が、「② こどもや若者、子育て当事者の視点を尊重し、その意見を聴き、対話しながら、ともに進めていく」とあることが挙げられる。4つ目が、子どもの権利条約の4原則を一番反映した視点としたことである。

子どもの権利条約の4原則とは、資料4 こどものけんり通信の upper 段に記載があるが、「差別の禁止」「こどもの最善の利益」「生命・生存・発達に対する権利」「こどもの意見の尊重」である。

視点2「こども・若者・子育て当事者の視点を尊重する」では、こども・若者と子育て当事者が安心して生活できるよう、それぞれの状況に応じて必要な支援を切れ目なく行い、十分に支援する。理由としては、1つ目が、参考資料2 こども基本法の「こども施策に関する基本的な方針」に「③ こどもや若者、子育て当事者のライフステージに応じて切れ目なく対応し、十分に支援する」とあるため反映したこと、2つ目が、こども家庭庁が作成した「自治体こども計画策定のためのガイドライン」で、ライフステージ別の重要事項をカバーできるようにと説明があること、3つ目が、こども若者が自立できるようになるまでの必要な支援を年齢等の理由で途切れないようにすることが重要であることが挙げられる。

視点3「地域全体でこども・若者の育ちを応援する」では、行政をはじめとして関係機関・団体、事業者など地域の多様な主体が相互に協力し、こども・若者が自立して社会生活を送ることができるようになるまで地域全体で支える。理由としては、1つ目が、こども計画においても、地域でこども若者に関わる主体が協力して相互に補完・連携することが重要であるため、現行の小平市子ども・若者計画と同様の視点を設定すること、2つ目が、小平市の上位計

	<p>画で、市のまちづくりの最上位計画である、第四次長期総合計画に記載のある、基本目標1ひとづくりの目指す方向性の「くらしもまちもひとがつくっていくものであり、ひとづくりがまちにとって一番大切な観点となります。・・・(中略)・・・地域社会を担い、将来にわたって多様に活躍できる人づくりをめざします。」という一文を反映することが挙げられる。</p> <p>④ 基本目標は3つ設定した。基本目標1は、主にこども・若者に関する目標として、「すべてのこども・若者の健やかな成長と自立を支える」とした。理由としては、1つ目がこども・若者の最善の利益を図る視点に立った施策・事業を推進することが重要、2つ目がこども基本法やこども大綱でも、子ども自身の主体性を重視していることが挙げられる。参考資料3に記載のこども大綱の目指す「こどもまんなか社会」を実現するための重要事項として、「こども・若者が権利の主体であることの社会全体での共有等」と記載がある。これらを踏まえて、基本目標1に、こどもの権利尊重に関する事業が入ってくる想定である。</p> <p>基本目標2は、主に家庭に関する目標として、「ライフステージに応じて切れ目なく支援する」とした。理由としては、1つ目がこども若者の心身の健康も重要であり、発達や成長に応じた切れ目ない支援が必要であること、2つ目が自己肯定感を高めて成長できるような環境の整備も重要であることが挙げられる。参考資料3「2ライフステージ別の重要事項」として、「こども誕生前から幼児期まで」、「学童期・思春期」、「青年期」に分けて記載があり、こいだいらこども・若者みらいプランにおけるライフステージごとの施策は、基本目標2に入るイメージである。</p> <p>基本目標3は、主に地域に関する目標として、「地域で安心して子育てができる環境を整える」とした。理由としては、家庭、地域、学校、行政をはじめ地域社会全体でこども・若者を支える必要があることが挙げられる。体系図の施策の方向とそれぞれに紐づく事業は、次の会議までに更に検討する。</p>
会 長	<p>参考資料3の中で、ライフステージの切れ目なくという説明については理解したが、学童期・思春期のなかで「質の高い公教育の再生等」という記載があるが、ここでいう「再生等」とは何を指しているのか。現在の学校教育で足りないところがあるということではなく、見直すというイメージか。</p>
事務局	<p>こども大綱には、「こどもにとって、学校は単に学ぶだけの場ではなく、安全に安心して過ごしなが、他者と関わりながら育つ、こどもにとって大切な居場所の一つであり、こどもの最善の利益の実現を図る観点から、また、格差を縮小し、社会的包摂を実現する観点から、公教育を再生させ、学校生活を更に充実したものとする。」という記載がある。そういった視点で学校教育を見直すというイメージであると思われる。</p>
委 員	<p>具体的な施策をイメージして体系が作られているのか。</p>
事務局	<p>これまでは「小平市子ども・若者計画」に基づいて市のこども・若者施策を推進してきたが、ここで全庁的なこどもに対する施策を一つにまとめる作業をしているのが「(仮称)小平市こども計画」の策定であり、ここの施策をイメージして基本目標を3つ設定したところである。次の会議時には具体的な施策をお示ししていきたいと考えている。委 員からの意見を反映していきたいと考えている。</p>
委 員	<p>目標はこども家庭庁から降りてきた政策があつて、それを各都道府県などが取り組んでいくという流れなのか。自分は長年教員をやってきて、もちろんこどもを中心に考えてきたが、その中で何が足りなかったのかというのがわから</p>

	ない。小平市の中で問題点がどこにあると思っているのか。
事務局	こども基本法やこども大綱ができて、各都道府県と各市町村の計画も策定しなくてはならない流れになっている。現時点では計画の全体像について話をしているので、具体的にイメージしにくいですが、例えば国全体としては、これまでの取組でこどもの意見を聴きながら取り組み、こども施策をさらに進めるために、意識を変えていこうという方向性を盛り込んでいくということになった。昨年度に様々な意見聴取を行っているので、これから具体的な施策につなげていきたいと考えている。
委員	<p>学校教育の現場の立場からすると、過去を振り返ってみても学校教育の取組で悪かったものはないと思う。ただ学習指導要領が10年に1回改訂されながら、時代とともに様々変わってきている。ゆとりが大事にされた時代や、教員が教えることが中心の時代もあったが、現在の学習指導要領では、こどもたちが主体的に学ぶことを重視しており、それに沿って取り組んでいる。学習や普段の生活、行事についてもこどもたち自身に考えさせている。特にコロナ禍など正解や答えのない問題に対しても、自分たちで解決する力をつけるために、そのような流れになってきている。良い、悪いではなく、転換してきているのが事実であると思うし、こども基本法ができたことも含めて、こどもの意見や権利を学校で尊重することに取り組んできている。</p> <p>体系図を見ているとたくさん項目があるが、説明を聞くと納得できるところがある。本計画についてはこども家庭部が中心となって策定しているが、今後教育部や健康福祉部など、こどもを取りまく部署とよく連携してほしい。</p>
事務局	本協議会に体系案を提示する前に、庁内の各部署が委員となっている庁内検討委員会という会議の場で意見を出し合っている。今後も庁内全体で連携して取り組んでいく。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局	<p>資料2の上から4段目、パブリックコメントは11月中旬から12月中旬を予定している。従来の大人向けのもの以外にも、こどもむけの意見聴取も予定している。5段目以降、今年度実施するイベントの1つ目、いきいき協働事業では、「声を聴かれにくいこども等の意見を聴く機会の開催」としてそれぞれの居場所に赴き声を聴くほか、7月19日に映画上映会とワークショップ、7月27日にワークショップを予定している。本日の資料として、2種類のチラシを配付している。6月20日号市報で事業を周知し、申込み受付を開始した。</p> <p>2つ目の講演会は、11月15日にFC東京の石川直宏氏によるこどもの権利に関する講演会を予定しており、併せてこども計画のパブリックコメントを周知する予定である。3つ目として、市長のタウンミーティングを花小金井南児童館で7月2日に開催予定である。内容は、ちっちゃ芽クラスという1歳児と保護者の親子クラスに集まった保護者向けに20分程度実施し、子育てしてみている喜びや大変だと感じることなどについてをテーマとして取り上げる予定である。最後にこどもむけ周知イベントは詳細は未定だが、こどもの権利に関する簡単なイベントを児童館で行い、こども計画素案のパブコメについて周知を予定している。</p>
委員	パブコメについてだが、寄せられる意見数の量はどの程度を想定しているのか。また、若者向けの周知については予定しているか。
事務局	これまで市で実施している計画などに寄せられるパブリックコメントの件数は、1桁のものから30～50件ほど集まるものもあった。今回初めて策定する計画なので件数については予測がつかないが、様々な年代の方から意見を

	<p>いただきたいと考えている。若者向けの意見聴取はこれまでアンケート調査や個別の意見聴取の場で行ってきているが、これから実施するイベントなどでパブリックコメントの周知を検討していきたいと考えている。</p>
会 長	<p>パブリックコメントの広報と収集は通常どのように行っているのか。様々な世代に届くと良い。</p>
事務局	<p>広報については、各公共施設でのポスター掲示などのほか、市報、LINE、ホームページなどで行っている。パブリックコメントの寄せ方については、ホームページ上の回答フォームのほか、窓口、FAX、メールなどでも受付をしている。様々な方法があるので利用しやすい方法を選んでいただき、期間内に意見を提出してもらう形になる。</p>

(3) これまでに実施した意見聴取について

事務局	<p>資料3の①から⑬までは令和6年度第4回青少年問題協議会で報告しており、そののちに実施した⑭、⑮について説明する。⑭ヤングケアラーの周知・啓発事業「出前授業」とグループワークでは、こども家庭センターの取組として、3月28日に武蔵野美術大学・津田塾大学学生向けにヤングケアラーの出前講座と、令和6年11月から12月に武蔵野美術大学「市の課題に関する報告会」で報告してもらった「小平市独自のヤングケアラーの普及・啓発のためのデザイン調査」についてグループワークを行った。</p> <p>グループワークでは、ヤングケアラーを定義づけてラベリングすることで、経験者はその過去の経験と距離が取れるが、それが苦しくなることもある。ヤングケアラーと名前をつけることで、それに含まれる、含まれないという区別が出てしまうことに危険性を感じた。社会全体にある「ヤングケアラーはこういう人」という思い込みがあり、そのイメージに沿って啓発物をデザインすると受け入れられやすいが、それがレッテル貼りにつながる恐れもある。デザインと相反する部分があり、難しいと感じたなどの意見があった。</p> <p>⑮武蔵野美術大学生とラジオに出演では、⑧令和6年11月から12月に武蔵野美術大学「市の課題に関する報告会」で提案のあった「ラジオ放送」を活用した意見表明の意見を取り入れて、学生と職員でコミュニティエフエムラジオ局・TOKY0854 くるめラの番組「ほくほくラジオ」に出演し、今回の提案内容を紹介した。</p>
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) こどものけんり通信の発行について

事務局	<p>資料4について、5月の春のこどもまんなか児童福祉月間に合わせて発行した。庁舎1階ロビーでの掲示に併せて市のホームページにも掲載した。</p> <p>初回の第1号、1ページ目では、子どもの権利条約の4つの原則と令和5年4月に施行されたこども基本法、それに基づき子育て支援課で行った意識・実態調査や、個別に実施している意見を聴く取組から寄せられた意見を、これから策定することも計画に反映させていくことを記載している。</p> <p>その下には、1月に実施した「みんなでふれあい動物園」というイベントで、どのようにこどもの意見を反映させたかを記載した。</p> <p>2ページ目の上段では、昨年度に実施した個別の意見聴取で出された意見の紹介、下段では、意識・実態調査のアンケート結果の紹介を掲載した。</p> <p>3ページ目の上段では、武蔵野美術大学学生の意見を取り入れて出演したラジオ番組の様子を報告し、下段では、実施した各イベントの様子をご覧いただける案内と、11月に実施予定の講演会の案内を掲載した。</p> <p>こどもまんなか月間として5月の春と11月の秋、年2回のタイミングに合わせてこどもの権利の普及啓発と、子育て支援課のこどもの声を聴く取組などを紹介していく予定である。</p>
委 員	<p>こどものけんりつうしんは、学校には配付されたのか。こどもの意見を聴い</p>

	て実現したことはとても良い取組であるし、実現したことを紹介されたのを見るとワクワク感がある。こどもに意見を聴いたときに意見が出るかどうかということに関しては、きちんと意見が反映されるかどうかという点で大きな違いが出る。聴いた意見に対し、何かに反映したということをごどもに返していくことが大事だと思うので、学校に資料として配付してほしい。
事務局	これから配付していきたい。
委 員	つうしんの中に記載のある小平の良いところに関してであるが、自分は「平らであること」だと思う。平らであるから老人向けの施設がたくさんあり、それによってこどもと老人との交流が可能になる。自分は樹木医として色々なところに行くことがあり、多摩丘陵や田園調布では小平の真似はできないと感じている。小平市の特色であり、いい環境で小平だからできることがたくさんあるはずである。現状をきちんとつかむことが重要であると思う。
事務局	昨年度実施した意識・実態調査の結果に基づいて、現状を把握していく予定である。
会 長	つうしんは年に2回発行ということによろしいか。
事務局	お見込みのとおりで、春と秋の年2回を予定しており、次は11月を予定している。

3 情報交換・意見交換

委 員	参考資料5について、スクールカウンセラーはスクールソーシャルワーカーに含まれるのか。また、コミュニティスクールの現状は。
委 員	<p>各学校にはスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー両方が配置されている。スクールカウンセラーは臨床心理士が、生徒や保護者の心の悩みを相談する先である。それに対してスクールソーシャルワーカーは社会福祉士であり、支援が必要な家庭には家庭訪問して、福祉と連携しながらこどもが健全に育っていきけるような家庭環境の整備を行っている。</p> <p>小平市は今年度から全校でコミュニティスクールが導入されており、これまでも地域の意見が反映されていたが、より地域が主体的・積極的に学校経営に関わるようになった。</p>
委 員	こどもの遊び場の問題で、こどもが公園で遊ぶにも近所から音がうるさいと言われて遊べなかったと言って帰ってきたことがあった。また、少し大きな公園に行ってもボール遊びがだめと張り紙がしてあり、どこで遊べばいいのか、こどもの声が聞こえなくなってきたと感じている。もっと遊び場所があったらいいと思う。ボール遊びができる場所が固定されてしまうと、近くないと行けない。
委 員	学校のこどもの不登校やいじめなど、小平市がどのように対応しているか知りたい。高校では問題行動を起こすと退学になってしまい、30年前と学校現場は変わっていないと感じている。1つの原因は、先生が忙しくて考える余裕がないのでは。そのような状況であると、なかなかいじめなどの状況が良い方向に行かないのではと危惧している。
委 員	若者に対する発信や周知に関してであるが、武蔵野美術大学との取組でラジオなど活用されているとあった。今後ポッドキャストなど活用して市民の方に出してもらうなど活用すると良いのでは。ポッドキャストは、ラジオのように何かしている間にも情報を得ることができるツールである。ほかには若者が良く集まる場所にチラシなどを置くのもよいのでは。例えば一橋学園駅の周りには学生が集まるので、そういうところにチラシなどを置くと良いのでは。

委 員	<p>計画の体系案については、言葉の概念が大きすぎて捉えにくかったが、今後細かい取組の説明に入っていくということだったので、これから考えていきたいと思っている。</p> <p>先日こだいら特別活動の日の授業参観があったので、小・中学校の様子を観に行った。自分がこどもの頃の学級会のスタイルとは全く違い、今はこどもたちで意見を出すことや、自分たちで考えて運営するというのが進んでいて、意見を言うのを恐れないことを知った。こどもはこどもなりに考えていることがある。アンケート調査だと項目の内容の概念が大きすぎて、当てはまらないと思ってしまうこともあると思う。小さい気持ちやこうしたいという思いはそれぞれあるので、そうした思いを取り上げられたらいい。</p>
委 員	<p>武蔵野美術大学の学生が、自分たちの提案が取り入れられてラジオに出演して、自分の意見が実現できてうれしかったというのを見て、自分の意見が取り入れられて実現することが自信になるので、こうした取組がもっと広まってほしい。</p>
委 員	<p>青少年委員として活動していることを紹介する。年間を通して青少年リーダー養成講座を行っており、小学校5・6年生向けのジュニア講座と中高生のシニア講座を設け、月に1、2回イベントを行っている。そのほか、8月6日の広島平和記念日に併せて実施される式典に出席する広島平和学習を行う予定で、事前申し込みしたこどもたちを青少年委員が引率して平和について学ぶ学習がある。前後の学習も行う。そのほか姉妹都市の北海道小平町のこどもたちとの交歓交流事業があり、8月4日から行う予定で、それぞれの準備で忙しく活動している。</p>
委 員	<p>最近のこどもたちは自分の意見を活発に表現することが増えてきて、変わってきたと感じている。その反面、保護司で接しているこどもたちは自分の殻にとじこもっていることが多く、色々な犯罪に染まっていつてしまっていると感じる。コミュニケーションの大切さや方法、人との交わり方の大切さなどを伝えて、相談活動を行っている。</p> <p>そのようなこどもたちは小さい時に虐待などの色々な経験があり、殻に閉じこもっていき、その結果犯罪に染まってしまうことがあるので、コミュニケーションのあり方を考えていかないといけないと感じている。</p>
委 員	<p>主任児童委員として活動している。小・中学校では先生方が日々一生懸命こどもたちに関わっているが、地域に住む大人として、地域のこどもが、幼稚園から小学校、中学校に通う成長の過程を見てきて、この子どうしちゃったのかなという子がいることがある。保育園・幼稚園から小学校、小学校から中学校に上がるときに、情報の伝達ができているようできちんとできてない部分があり、課題のあるこどもの情報がうまく伝わっていないと感じることがある。主任児童委員の活動の中で関わっていることがあると、それぞれ進学したときに学校に伝えることができるが、もっと連携が取れて、こどもたちにとって良い環境になり、自立の手助けができていけるといいと思う。</p>
委 員	<p>児童養護施設で毎日こどもたちと関わっている。最近は本体施設とは別に、グループホームを地域に増やしていくという方針になっており、グループホームを複数運営しており、地域の中で生活しているこどもが増えている。その中で遊び場が課題になり、本体施設内だと広い遊び場があるが、グループホームだと公園が遊び場になり、ボール遊びができないところが多くて遊び場がないと感じている。そのほか、暑いのでプールに行きたいが、萩山公園プールは老朽化で閉まっており、東部公園プールは今年度を持って運営を終了しますとある。そのほか近いところでは小金井公園プールは本格的に水泳をする人向けの施設で、こどもたちが浮き輪を持って遊ぶようなところではない。元気に遊びたい子向けの場所がないと感じている。ゲームやネットなどで遊ぶことが増えている中で、環境としても内側にこもるようになってしまっているのではないかと心</p>

	配している。市としても様々な事情があり難しい部分があることは承知しているが、こどもまんなか社会ということを考えると、こどもが健やかに育つ遊ぶ場所を設けることが大事だと思う。
委 員	こども大綱や教育目標にも指標や数値が出てきて、色々なところに数値目標値が出てくる。これからこだいらこども若者みらいプランを作る上で、数値を整理してほしい。取組を評価する点では数値目標は必要なことではあるが、目標数値を超えればよいというわけではない。目標達成だけではなく、そこに入ってこないこどもや家庭へ支援していくことの方がむしろ重要だと思うし、そういった支援をして行ける計画になると良い。
委 員	話が壮大すぎて、アプローチする年齢層も広すぎて、つかめないところがある。この協議会の目的は理念計画を作ることなのか。どのようなところに協議会として意見を伝えていけばよいのか。
事務局	この協議会ではこども計画を策定することを目的としていて、今後主要な市の取組で、具体的な施策内容を練っていくことになる。各部署と連携し、本協議会で出された意見については検討していきたい。今年度策定を目指しており、平成8年度から9年間の市の取組をまとめる計画となる。調査結果から見えてきた小平市の課題や強みを拾い上げて、小平市ならではの計画を策定していく。次回以降の協議会で具体的な取組を示していくことを予定している。たたき台は会議で事務局が示していくので、意見をいただき計画を取りまとめていきたい。
副会長	自身は青少対代表者会議から代表して本協議会に出席している。本協議会の前段で、市の各部署の職員が出席している会議で計画について検討され、更に今日市に関係する様々な立場から人が集まってきて議論している。貴重な時間を使って検討しているので、更に広報活動に力を入れてほしい。
会 長	次の会議で具体的な施策が出てくると思う。今日示された計画の目標についても、皆様の立場からの意見が出てくると思うので、気が付いたことについてきちんと意見を述べていくことが本協議会の役割だと思う。気が付いたことについては率直に意見をいただきたい。